

# 運動会を契機とした遊びの変化



丸　山　く　み　子  
宇　賀　神　知　子

## 一 目 的

私たちは、過去様々な運動会をしてきました。その目的も身体

活動にポイントをおいたものであったり、保育の集大成として親

にみせるための日であったり、日常保育そのものであるという考

えからゲーム的要素の強いものなど、種々ありました。

しかし上記の目的であれば、なにも運動会という形でなくても  
目的達成は可能なのではないか、むしろ「行事」であるがため  
に、①日が決まっていること、②保護者の参觀があること、の二

そんなことから、今回私たちは運動会そのものをいかにしたら

つの条件からくる制約のため、教師の本意でなくとも、ひたすら  
子どもを練習へとおいこんでしまう危険性をはらんでいるのでは  
ないか等、運動会をすることの意味について確信のないままにき  
ておりました。

また一方、運動会を経験すると、急に子どもが生活の様々な所  
で大きく変化し成長することも実感として認めない訳にはいきま  
せん。それ故に、何故するのかあまり間われないまま、しかし  
確定的目的もないまま今日まで来てしまつたのではないかでしょう  
か。

よいかという視点から考えることを改め、運動会前と後の子どもの生活及び遊びの変化に着目してみました。どういう傾向の子どもが運動会のどの部分の刺激を刺激としてうけとめ、遊びに質的転換をなしていったか、すなわち運動会が子どもの遊びにもたらしたもののは何であるかを分析することにより、運動会の意味について考察し、さらにそのあり方について考えたのです。

## 二 幼稚園の状況

### (一) 園児数

三歳児は三十名で二クラス、四歳児は六十名で二クラス、五歳

児は六十名で二クラスである。本研究の対象児は、五歳児である。

### 三 観 察

る。

### (二) 教師数

園長、主事、主任、各一名、教諭六名、助教諭一名の計十名。

### (三) 保育形態

子どもが自分で自分の遊びを発見し、選びとり、それに打ち込

むことにより、考えたり試みたりしながら経験を深めていく保育をめざしています。そのために、自由な時間と場と物的環境が用意されています。

四 おもな一日の保育の流れ

八時四十五分 登園

九時 遊び

十一時三十分 昼食

十二時三十分 集団活動

一時 降園

この観察内容を進めていく上で、各遊びのブロックを仮にA→Dと致しました。これはあくまでも便宜上のことで、実際には遊びの内容やグループがA→Dに固定されていた訳ではありません。もちろん、教師がこのようなグループに分けて活動させていたものもありません。むしろ網の目のようにいりこんでいた子どもの遊びを、記録を整理し単純化していったものであります。

(+) 運動会前の遊びの状態

「Aグループ」

六月中旬、一齊活動の際意図的にドッジボール活動をとりいたところ、男児約二十名が興味をもち、自由活動の時毎日するようになりました。

しかし、ドッジボール遊びの内容理解の低さもあいまってか、

チーム内同士でもボールの取り合いが激しかったり、自分が最後まで勝ち残ることのみを考え、ボールにあたって外野に出ると、あとは次の回まで関心がなくなってしまうなどの、個人プレーがめだりました。

「Bグループ」

年中組の時より、おままごと、おうちごっこ、お店やさんごっこ、のりものごっこなどの遊びを、男児五、六名、女児二十五名が、二人ないし三人のグループに分かれて遊びました。

しかし興味の中心は制作がほとんどで、役割分担や、場づくりなどの遊びの機能性は、あまりありませんでした。

「Cグループ」

鉄棒、ブランコなど固定遊具、なわとびや絵をかくなど、一人遊びをしていた子どもで、おもに女児十名前後おりました。

園生活に適応するのに時間を使つたグループで、一日の園生活

の中でもすぐ行動で遊びにとりかかることは少なく、他の子どもの遊びをじっとみることで、自分たちは遊びに参加することが多くありました。

「Dグループ」

情緒障害、言語遲滯、知恵おくれなど、なんらかの障害をもつた子ども七名あります。

水や砂で遊ぶことが多く、他者とのかかわりはほとんどありませんでした。

(-) 運動会に向かつて教師が与えた刺激と子どもの反応

① 棒体操を新しい刺激として取り入れる

Bグループ 女児が積極的に棒体操に関心を示し始めました。一週間ほど教師と一緒にして自分たちがその棒体操を覚えてしまつた頃から、ごっこ遊びへと戻つていきました。そして、おままで

とやお家ごっここの場面の一部としてその扮装のままで、ある時はバレエを行く、あるいはそこで演ずるといったことで、自然に自分たちの遊びの中に取り入れていきました。

ここでやはり特記すべきことは、Cグループの子どもです。彼らは朝登園すると、すぐにホールに行ってBグループが来るのを

待ち、彼らがする棒体操をじっとみると、一週間ほど

続きました。

対する興味が年中組女児にまでびて來た頃、徐々に参加し始めました。実際にCグループがしてみると、教師およびBグループのしていたのをじっくり観察していた経験から、正確に棒体操をすることができました。そのことを教師がクラスでとりあげ、Cグループは棒体操の先生として活躍をするにいたりました。

#### ②教師がトラックのラインを引く

Aグループがすぐに刺激をうけ、かけっこが始まりました。バトン、ひもなどを用意してリレーをするようになると、トラックの内側の有利さがわかつたり、バトンのうけわたしを考え、など各自がチームの一員として工夫する態度がでてきました。

身体活動に消極的であったBグループ男児も、Aグループに刺激され、外へ出て彼らのリレーを見るなど、次第に関心をもち始めました。Bグループ男児は、かけっこスタートの合図、テーブもち、ライン引きなど、進行係として、運動会の中心活動に主体的にくいこんでいました。彼らにとって“かけっこやリレー”を進行させること“それ 자체を、一つの運動会”こととしてとらえていく中で、自分たちが安心して活躍する場をつくり出していく

#### ③小学校の運動会を学年全員で見学する

運動会に対してもイメージが希薄であることから、近くの小学校の運動会を見学しました。それにより、自分たちの運動会に対するイメージ化ができ、棒体操、かけっこ、体操と、一つ一つバラバラであつたものが急速に運動会という概念をもつてまとめることができるようになりました。自分たちなりの運動会への期待感から、Aグループは種目を考えて検討し、Bグループ女児はボスターづくりなどに積極的に参加するようになった訳です。

#### ④運動会についての話し合いをする

③の状態から引き続き、運動会当日も子どもたち自身の手で会が進行できないものか話し合いました。

どんな仕事や役割があるか意見を出しあったところ、自分たちの運動会のイメージが明確化されていたため、Dグループ以外はほとんど教師の助言なしに話し合いをすることができました。

#### (3) 運動会および運動会後の子どもの変化

〈Aグループ〉

運動会当日は、係や競技に一生懸命とりくみ、特にリレーやつな引きなどの競技において、自分の可能性に挑戦する姿がみられました。

運動会後またドッジボールにとりくみましたが、チームのメンバーとして協力して競い合うことの意識が激しく出てまいりました。それは、ボールをうけ取る相手がいることを確認してからパスしたり、逃げる時もかたまらず各々が注意して拡散するなどからも、はつきりうかがえました。またその結果、チームとしての勝敗に関心がよせられ、スコアボードが欲しいなどの要求が出てくるに至りました。

それは、自分ひとりですよりも、チームの中で友だちと力を合わせればもっと楽しいことが、運動会を自分たちの手でささえたという経験を通して、はつきりつかめたためだと思います。

運動会当日は、競技に楽しんで参加しました。特に係の仕事を、喜びながらも緊張感をもつて、皆をリードしながら責任をはたしました。

運動会後も、すぐにごっこ遊びを始めました。

今まで一方の側だけの役割、すなわち作る側もしくは売り手側だけだったものが、運動会の中で会をささえる側に立つたり、

自分たちの力を発揮する側にまわったりなどの、様々な立場を経験したことから、役割分担がはつきり意識化されるようになります。

このグループの活動が、十月下旬から十一月中旬までクラスの中心となり、最終的には全員参加の十六軒のお店やさんごっこへと発展していきました。

（Cグループ）

運動会は、棒体操を自信をもってすることができますが、係の仕事においては、多少状況等理解することができず、A、Bグループの指示に従って行動しました。

運動会後も引き続き、年中組女児と共に棒体操をしました。この頃からようやく棒体操に対して緊張感をもたなくなり、安心してするようになると同時に、一緒にしている友だちとの連帯意識が芽ばえてきました。棒体操のある時間したあとは、一緒にしたその友だちとクラスへ戻って、共にごっこ遊びをするようになつたのです。

（Dグループ）

運動会の雰囲気は楽しんでいましたが、競技や係の仕事それ自身には、ほとんど意欲を示しませんでした。

しかしDグループは、運動会当日を経験することによって、運

動会のイメージが明確化され、会そのものから刺激をうけて、そこから興味や関心をもつことができるようになりました。

Cグループおよび年中組女兒のしている棒体操を、時折ホールへいってみるとなりました。一人遊びとしての性質が強く、「自己」との、あるいは砂、水など素材との格闘であった彼らにとつて、他者のすることを見るようになるといふのは、大きな変化でした。そしてDグループの中同士で、急に、単純な物のとりあいなどのけんかが出てきました。明らかに自分以外の他者に関心が出て来たのです。そして三学期になり、だれもしなくなつたある日突然、棒体操のレコードをかけてくれるよう教師にたのみ、自分たちで意欲をもつてするようになったのです。

#### 四 考 察

個人差を認めた一人一人が生かされる保育には、すべての子どもを一つの基準——特に時間——に合わせて切り捨てるのない、柔軟な考えが必要だと思うのです。今回の運動会をとつてみても、運動会その日一日が活動の頂点として終わってしまうのではないことが、観察を通してはっきりしらされました。

つまり、教師が刺激をあたえたその時点ですぐに興味を示し、全力投球する子もいれば、運動会のその日を境に興味をもちスタートする子どももいたことに、注目せざるを得ないのであります。しかしとかく私たちは、教師の一方的な枠の中でたてた時間の中にはまらない子どもを切り捨てたり、問題をその子におしつけてしまつているのではないか。極論するならば、棒体操を例にとってみれば、すぐに興味を示したBグループ、一週間はただみるだけだったCグループ、二学期は心の中にあたため、三学期になってしまったDグループの、それぞれの時間は、具体的な長さは違っていても、内容的にはなんらかわりがないと思うのです。くいついてとりかかる時間的長さが違うのは、人間当然なのではないでしょうか。大切なことは、棒体操ならばDグループは確実に運動会で刺激としてうけとめたことを知つて、いつか彼等が自分たちの意志でてきたとき、その受け入れ態勢がいつも教師の側にあるということなのではないでしょうか。

二番目に、運動会は、それまでの生活が強く反映されており、日常保育の重要性を改めて認識させられました。つまり、結果としてあらわれた運動会そのものには大差はなくとも、一方は何故一斉練習がなければできなかつたかを考えたとき、それは日常保育と切り離して運動会を考えていたからに他ならないと思うのです。いくら日常保育を生かした、子どもに無理のない運動会をと

いつても、子どもの活動の分析もなしに、最終的にはひたすら教師のもつてゐる旧態依然とした運動会のイメージに近づけよう

すれば、練習の積み重ねがなされるのは当然であります。

三番目に、年間の保育の流れの中で、運動会は一つの構造をもつた刺激と考えられるということです。教師は運動会に向かって様々な点刺激を子どもたちにしておられます。それはつなや棒などの素材であつたり、運動会のイメージ確立のため小学校の運動会を見学したり、自分たちでできる運動会の役割を考えたりなど、その時、その場に応じて子どもの反応を確實にうけてとめながら、点刺激をしていております。つまり運動会は、多面的な活動であることから、それらの一つ一つの点刺激を包括した構造性をもつた刺激と考えられます。しかし教師がひたすら自分のイメージである運動会をおしつけるならば、むしろそれは多面的にはならないことが多い、あえていうならば、教師側だけの一面的なものとなってしまうのではないでしょうか。少なくとも、教師が刺激を準備して反応を示さない子どもがいた時、問題を子どもに返さず、違った刺激あるいはアプローチの仕方を用意していく中につつて、始めて多面性をもつた運動会が可能となるのではないですか。多面的である運動会は、構造性をもつた刺激であるが故に、子ども全員の遊びや生活に質的变化をもたらしたのではない

かと思います。

## 五 結 び

運動会は、子どもの遊びに質的变化をもたらす契機となりうることを、今回の実践を通して知らされました。

今後、このような構造性をもつた刺激が、子どもたちの遊び、行事の中にもまだあるのではないか、逆に何が構造性をもつた刺激となりうるか考へたいきたいと思ひます。また、それは二年ないし三年間の保育の中で、どのように配置され、意味付けていたらよいか、実践を通して子どもたちの姿の中からさぐり出していきたいと思つております。

(東洋英和女学院短期大学附属幼稚園)



〈資料〉

| 子どもの遊びの変化           |          | 教師の与えられた刺激                         |
|---------------------|----------|------------------------------------|
| 身体活動に消極的            | 身体活動に積極的 |                                    |
| ①水<br>鉢<br>遊び       | ②棒<br>体操 | 9月5日 2学期開始                         |
| ③木<br>の<br>ぼり<br>遊び | ④ドッジボール  | 9月11日 棒体操をする                       |
| ⑤りんご<br>迷路          |          | 9月17日 トランクのライン引きをする                |
| ⑥                   |          | 9月23日 線引きの練習をする                    |
| ⑦                   |          | 9月25日 小学校運動会見学<br>(運動会に対するイメージをもつ) |
| ⑧                   |          | 10月6日 運動会の仕事の分担(体)                 |
| ⑨                   |          | 10月7日 総練習                          |
| ⑩                   |          | 10月10日 運動会<br>・各グループはここでイメージをもつ    |
| ⑪                   |          | 3学期<br>1.2月                        |

—— 10人 ——